

米国経済点描（2008. 7. 17）

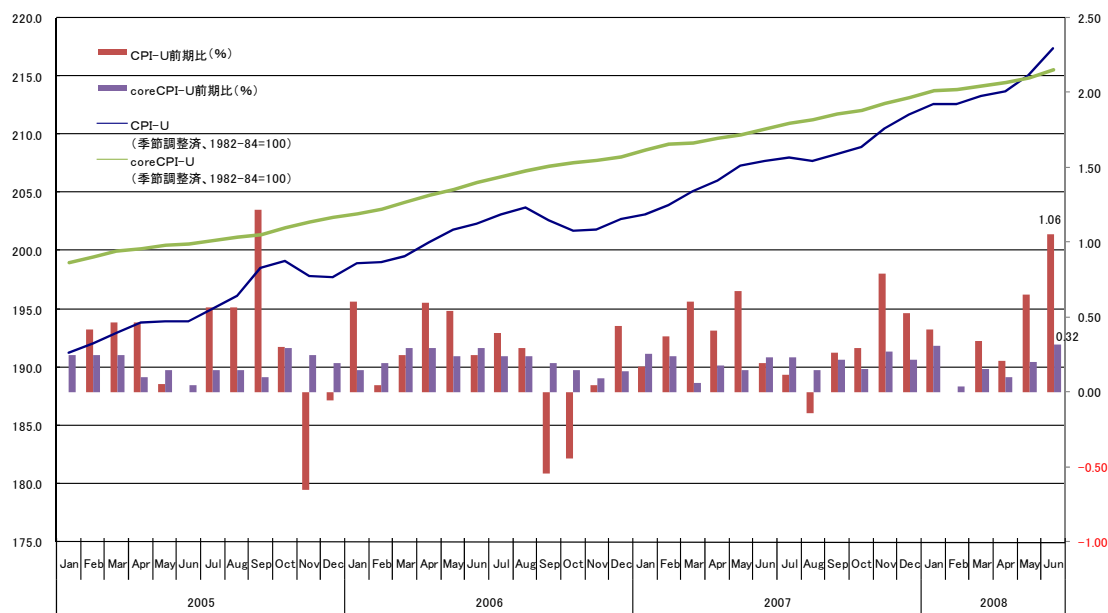
～物価指数～

米国労働省労働統計局（BLS）が7月16日に公表した2008年6月の消費者物価指数によると、6月の全都市消費者の消費者物価（季節調整済）は、5月から1.1%上昇し、前年同月比では5.0%の上昇率となった。また、食料及びエネルギーを除くコアインフレ率は0.32%上昇した。これは年率に直すと3.95%の上昇に相当し、FRBが許容の上限とする2%の範囲内をはるかに超える。消費者物価指数が前月比で1%を超えるのは2005年9月のハリケーン・カトリナ以来。また、原油高騰の影響を受けたエネルギー関連は、一年前より24.7%も上昇している。

一方、同局が7月15日に公表した卸売物価指数でも、最終財と中間財がそれぞれ前月から1.8%、2.1%と、前月に続いて大幅に上昇した。原油等の原エネルギー材料についてみると、1ヶ月で5.4%も急騰している。

金融システムへの不安とともに、低成長下の原油高を原因とするインフレが米国経済を覆いつつあり、不況に突入する懸念がいよいよ高まっている。

消費者物価指数(都市部消費者)



出所：労働統計局資料をもとにアクシスリサーチ研究所作成

○お問合わせ先○

株式会社アクシスリサーチ研究所 〒107-0052 東京都港区赤坂渡辺ビル4 F
TEL 03-5572-7770 FAX 03-5572-7771 E-mail [contact\("atmark"\)axis-research.co.jp](mailto:contact(atmark)axis-research.co.jp)